

気候変動は菌類に影響を及ぼすのか？ - わが国における地理的スケールでの分布研究からの考察

Consideration of climate factors concerning geographical distribution of fungi in Japan

広瀬 大^{1*}

HIROSE, Dai^{1*}

¹ 日本大学薬学部

¹School of Pharmacy, Nihon University

菌類は生物遺体の分解者であるだけでなく他の生物の共生者や寄生者として生活しており、陸上生態系の機能調節者であるといわれている。このような菌類の地理的分布にみられるパターンとその制限要因を解明することは、地球環境変動に伴う生態系機能の変化を予測する上で重要な基礎研究であると考えられる。しかし、菌類は菌糸体あるいは酵母として生活している微生物であり、自然環境下において特定の種における分布の有無を肉眼で確認することは難しい。そのため地理的分布のような広域的な分布に関する情報は大型の動植物に比べ極端に少ないのが現状である。演者らは、落葉分解菌と植物共生菌という異なる生態群からモデル材料を選択し、それらの分布に関する研究を行っている。これまでの研究結果から受動的分散能力が高い菌類においても、他の生物と同様に、地理的スケールの分布にパターンがみられることが明らかになりつつある。本講演では、これまでに得られている研究成果を紹介すると共に、気候変動が菌類に及ぼす影響を考える。

キーワード: 菌類, 地理的分布, 気候変動

Keywords: fungi, geographical distribution, climate change